

信頼され愛される
病院を目指して



- ②③ 整形外科紹介
- ④⑤ 新任医師紹介
- ⑥ リハビリテーション室紹介
- ⑦ 神奈川県難病医療支援病院の指定について 心エコー検査について
- ⑧ 認知症について HEALTHY COOKING

整形外科紹介



整形外科スタッフ一同



整形外科は腰や首、肩、膝、手や足の痛みやしびれなど体を動かす部位の病気を診療する科です。2016年の厚生労働省の統計で、病気で自覚症状がある人の割合（有訴者率）で最も多いのは腰痛で次に多いのは肩凝りであり、鼻づまりや咳痰よりも患者数は多いという報告があります。そのため整形外科は当院でも入院、外来とも患者数の大変多い診療科です。また当科で最も多く入院加療をしている疾患は骨折や捻挫などの外傷で、入院患者の6割にあたります。特に超高齢社会の現在、外傷も高齢者が多く、80歳代が入院時年齢のピークです。高齢者の骨折で若年者と違うのは、骨粗鬆症がベースにあるため、転倒などの低エネルギーの外力で受傷されることです。また手術時、骨が脆いため、ネジが効きにくく難渋することです。心筋梗塞や糖尿病、認知症など併存症が多く、年々周術期の管理が難度化しております。近年手術手技も発達し、小さい皮切や短時間の手術で体にかかる負担軽減したり、弱い骨に裸子等を固定するインプラントや手技があり、当院でも積極的に治療に取り入れています。

当院の整形外科は常勤医師7名の体制で、整形外科専門医が3名、臨床研修指導医2名が在籍しています。整形外科病棟は6階西にあり、単科の病棟で52床です。年間に約900例の手術を行っております。平成30年度の主な手術の症例数は、人工関節が74例、脊椎手術が134例、



関節鏡視下手術が 55 例でした。当科の手術の特徴としては人工股関節では前方アプローチを用いており、股関節周囲の筋肉を一切傷つけない低侵襲な方法で手術を行なっています。脊椎では OLIF 法という方法を用いて、献血の 1/4 から 1/8 の量の出血で脊椎固定術を行っています。また、経皮的椎体形成術にて骨粗鬆症に伴う圧迫骨折を 5mm ほどの創で治療しています。硬膜外電極による難治性疼痛の加療も行なっています。関節鏡視下手術は県西医療圏では症例数の多い施設です。特に

肩が挙がらなくなる腱板断裂という病気に対する関節鏡視下での縫合術を多く行っており、数mmの傷を数か所開けるだけで治療可能です。週に2回スポーツ外来を行っており、PRP 療法という、自分の血液から組織再生機能を持つ血漿成分を抽出し患部に注射する再生医療を行っています。特に難治性のテニス肘やアキレス腱炎に有効な治療法です。ちなみに PRP 療法は保険外診療ですご注意ください。

高齢者の転倒および骨折に関して地域を含めた活動をしています。大腿骨近位部骨折の患者さんには足柄上病院や地域の回復期病院と協力関係を結んでおり、より効率のよいリハビリテーションを実施しています。骨折の予防のため骨粗鬆症の加療も積極的に行っており、医師のみでなく、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士といった他職種チーム医療（骨粗鬆症リエゾンサービス）を行っております。本活動は国際骨粗鬆症財団により神奈川県内初で認定を受けております。

県西地区の運動器治療を、基幹病院として可能な限り対応していく所存でスタッフ一同頑張っております。小田原市立病院整形外科をよろしくお願いたします。



神奈川新聞に当院の骨粗鬆症リエゾンサービスが取り上げられました



NHK で骨粗鬆症リエゾンサービスの取材をうけた



IOFの骨粗鬆症リエゾンサービスの認定証

新任医師紹介

新しく赴任された医師の紹介になります。みなさま、よろしくお願ひします。



糖尿病内分泌内科
医師 能田 雅人



腎臓内科
医長 巽 亮子



呼吸器内科
医師 新 健史



呼吸器内科
医師 伊藤 真理



消化器内科
医師 田淵 晃大



循環器内科
医長 根本 照世志



循環器内科
医師 永田 貴子



循環器内科
医師 飯倉 早映子



小児科
医長 佐藤 睦美



小児科
医師 大久保 理沙



小児科
医師 糸永 育



外科
医師 百武 佳晃



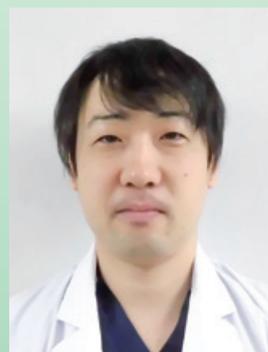
外科
医師 青木 花奈



外科
医師 吉田 隼人



整形外科
医師 長尾 明紘



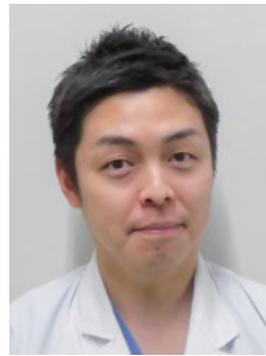
整形外科
医師 菊池 雄斗



整形外科
医師 戸田 圭輔



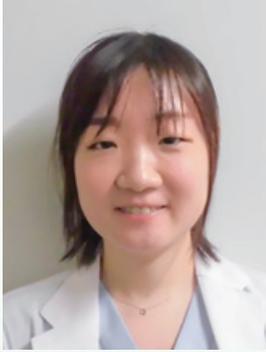
脳神経外科
医長 鈴木 良介



脳神経外科
医長 本間 博邦



呼吸器外科
医師 仁藤 まどか



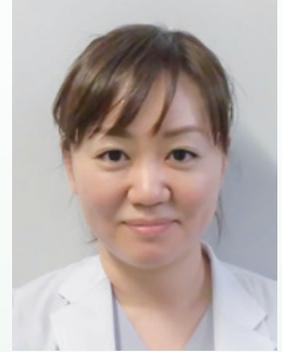
皮膚科
医師 小川 玲子



泌尿器科
医師 宮井 敏孝



産婦人科
医長 小河原 由貴



産婦人科
医師 峰 優子



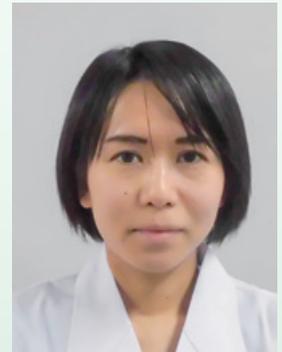
産婦人科
医師 梶山 涼子



産婦人科
医師 戸田 美咲



産婦人科
医師 柳澤 芙弥



産婦人科
医師 眞鍋 静恵



眼科
部長 中里 悟



耳鼻咽喉科
医師 北野 学



麻酔科
医長 高橋 マキ



麻酔科
医長 湯谷 達則



麻酔科
医長 副島 亜紀子



救急科
主任部長 関 知子



救急科
医長 川上 裕

リハビリテーション室紹介



急性期病院である当院には発症、または受傷して間もない重症な患者さんが救急車で搬送され入院しています。発症後、早期よりリハビリテーションを行うことで、その後の機能回復が早くなることがわかってきています。そのような患者さんのために、医師の指示のもと早期から介入し、歩けない、身の回りのことができない、食べ物や飲物が飲み込めないなど、生活上の問題点を解決する治療及び支援を行っています。また外来においては職業・スポーツ復帰、小児発達支援を目的としたリハビリテーションも実施しています。

〈理学療法部門〉

理学療法は病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある患者さんに対して、早期から起き上がり・立ち上がり・歩行などの基本的な動作能力の回復をはかる身体的なリハビリテーションに携わる部門です。理学療法士は病状の安定や疾病の治癒を目的に、病態の急変などに対するリスク管理を行いながら理学療法を行います。また救急センターや集中治療室では機能低下などを予防する観点で手術直後や発症早期の病状の不安定な時期から介入し、その後の順調な回復につなげていきます。

〈作業療法部門〉

作業療法とは、作業活動を用いて身体や精神機能に働きかけ、生活・生きがいの再獲得を図ることを目的としたリハビリテーションに携わる部門です。

内容として、運動や脳の機能検査、食事・更衣・排泄動作といった生活に必要な動作の練習、創作活動などを実施しています。また、自助具の作成や福祉用具の選定、在宅環境の調整も行っています。

他職種とチーム医療を推進し、方針に沿った目標を立て、患者さんに合った内容を選択して実施します。また、機能改善や復職、必要に応じて外来でのリハビリテーションも行っており、当院退院後のフォローにも力を入れています。

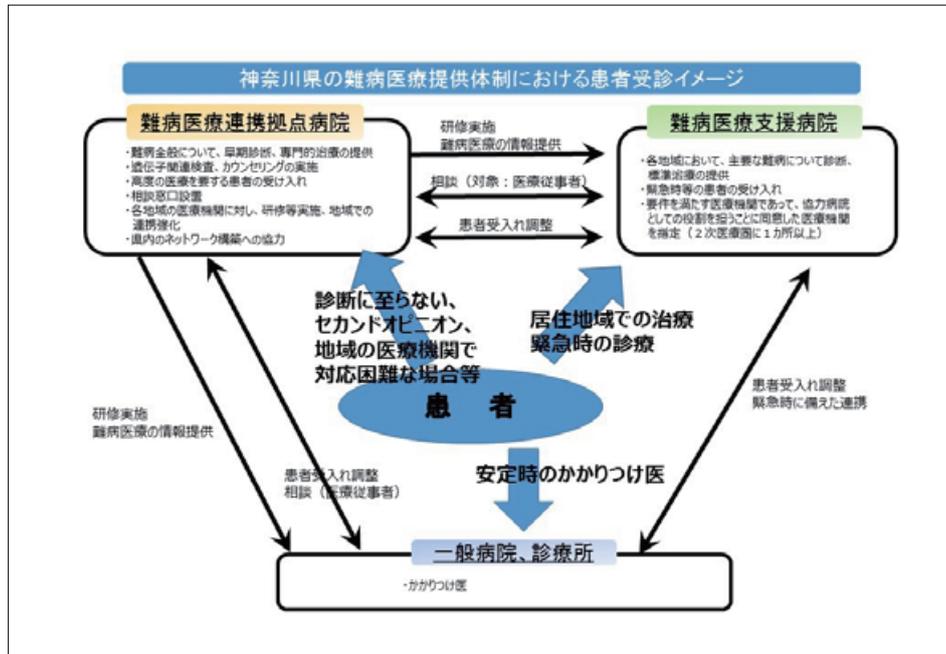
〈言語聴覚療法部門〉

言語聴覚療法は、脳血管障害を中心とした患者さんを対象に、失語症・高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害に対し、評価・訓練・支援を行う部門です。嚥下障害を有する患者さんには、ケースに応じて嚥下造影検査で飲み込みの評価を実施しています。また、外来では小児に対してもニーズに合わせた言語聴覚療法を実施しています。



「神奈川県難病医療支援病院」に指定されました

当院は平成 31 年 4 月 1 日付けで神奈川県知事から「難病医療支援病院」の指定を受けました。「難病医療支援病院」とは、地域で、難病の診断及び標準治療等を行うとともに、緊急時等の難病患者の受入に努めます。また、拠点病院等と連携し、地域内の医療機関連携を促進する役割を担います。



心エコー検査について

・エコー検査とは？

人間には聞こえない高い周波数の音（超音波）を身体にあて、その反射波を用いて生体内の構造や血液の流れなどを調べる検査です。

・検査の目的は？

心臓は4つの部屋とその間の4つの弁からなるポンプです。心エコー検査とは超音波を用いて心臓の動き、大きさ、筋肉や弁の状態、血液の流れを観察します。心臓病の診断だけでなく治療方法の選択、治療効果の判定にも役立ちます。

・検査の内容は？

検査ベッドに左側を下にして横になっていただきます。検査中はこの姿勢を続けていただくことが必要ですので痛みやしびれがあったらお伝えください。

胸部に超音波を出す接触子を当ていろいろな位置、方向から心臓を観察します。

この際ゼリーを塗ります。超音波を通しやすくするためのもので体の害になるものではありません。接触子を押し当てるため少々痛みを感じる時があります。我慢できないときにはお伝えください。

時々息を吸ったり吐いたり、息止めをしていただきます。

検査時間は20-30分程度ですが、病気の種類や患者さんの状態により前後します。





にんちしょう 認知症について

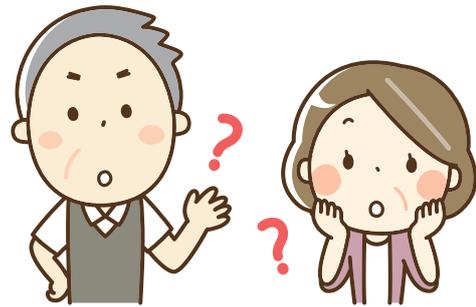
心身医療科 主任部長
竹内 文一



昔話には決まっておじいさんとおばあさんが登場し、なにかいいことをしたあくる日、「あらこんなところから大判小判が」となるものです。ひょっとして、この方々も認知症かしら、失くした財布が見つかったのね。“めでたし、めでたし。。。 ” これも毎日続くと、そうも言うてはいられません。介護する家族は、みなさん認知症の患者さんに困っています。四六時中、寝ても覚めても、認知症の症状に振り回され、疲れて、不安で、悩んで、怒って、悔やんで。そんな人に向かって、「好きでこの病気になったのではない。苦しんでいるのは本人。もっと優しく、愛おしく接してあげて」なんてお説教は介護する人を更に追いつめてしまいます。

現在はまだ治る病気ではなく、進行していくのも特徴

の一つですが、なかには治療で戻る見かけだけ認知症ということもあります。早期に診断し、早くからケアをし、治せるものは治し、そうでない場合も病気の進みが遅れ、本人も周りも苦しまなくてすむように。ただし、不老を求めあまり不良にならないように、あたり前の“若い”でありのままにすごせますように。



HEALTHY COOKING

認知症予防につながる料理レシピ ～サバの3色丼～



食事や運動といった生活習慣を改善することが、認知症の予防につながります。特にn-3系脂肪酸であるDHA、EPAには、脳卒中や心筋梗塞の原因となる血栓を予防したり、抗炎症作用、降圧作用などの効果があるとされています。n-3系脂肪酸はサバ、サンマ、アジやエゴマ油、亜麻仁油に含まれています。



★材料 (2人分)

- ご飯 茶碗 2杯 (300g)
- サバ缶(水煮) 1缶 (190g)
- 生姜 1かけ
- 砂糖 小さじ 2
- しょうゆ 小さじ 1
- 卵 2ヶ
- 塩 ひとつまみ
- みりん 小さじ 1
- サラダ油 小さじ 1
- ほうれん草 1/2束
- 塩 少々
- 白ごま 少々

★作り方

- ① サバの水煮缶を開け、水分を切る。生姜をおろし、しょうゆを入れて水分がとぶまでフライパンで炒める。
- ② ボールに卵を割り、溶きほぐす。塩、みりんを入れる。油をひいたフライパンで菜箸を使い炒り卵を作る。
- ③ ほうれん草は洗い、塩を入れた熱湯で茹で、冷水にとる。水気を切り、2cm程度に刻んでおく。
- ④ 茶碗にご飯を盛り付け、その上に①～③のサバ、卵、ほうれん草を盛り付ける。上から白ごまをかける。



栄養価 (一人分)

エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
532kcal	31.3g	18.3g	62.7g	1.8g